

SG 第30回

オーシャンカップ

7/22(火)～7/27(日)ボートレース徳山

2025年も折り返しに差し掛かり、下半期一発目のSGがオーシャンカップとなる。今年は全国屈指のイン天国へと化している徳山が舞台だ。地元勢が意地を見せるか、遠征組が強烈なインパクトを残すか。真夏に燃え上がる徳山から目が離せない。

昨大会覇者の茅原悠紀



**絶頂期を迎えた茅原悠紀がV候補
今年好調をキープする新田雄史、
復調した峰竜太も侮れない**

悪夢のできごとが起こってしまった。6月18日、平和島の一般戦を走っていた毒島誠がコンマ02のスリットオーバーとなり今期2本目のフライング。毒島は今大会の選出1位で当然優勝候補筆頭だった。だが、これ以上事故点をつけることはできなくなり、厳しい戦いを強いられることになってしまった。

では浮かび上がる優勝候補は誰か。それは今まさに絶頂期を迎えている茅原悠紀だろう。前期8・88の勝率を記録した茅原は自身初の勝率1位に君臨した。4月から5月にかけては6節連続優出と抜群の安定感を見せており、そ

の充実ぶりは他の追隨を許さない。また徳山水面との相性も素晴らしい。過去13優出5Vの実績があり、そのうちの4VがGIと水面相性は最高。今大会は連覇の期待がかかるが、徳山での開催は間違いなく追い風が吹いていると言える。

茅原の勢いに負けず劣らずの成績を残しているのが新田雄史。今年是一般戦の出場が多いとはいえ、グラチャン前の時点で10優出7V。6月の桐生周年では約4年ぶりのGI優勝を飾った。今年の最大目標はもちろん10月に地元・津で行われるダービーだが、今の好調さを考えれば久々のSG優勝

OCEAN CUP

in TOKUYAMA

●表1 オーシャンカップ出場選手順位表

出場順位	登番	選手名	得点	前順位合計	優出	優勝	備考
前年度V	4418	茅原 悠紀	62	739	6	2	9年連続11回目
優勝戦出場者	4238	毒島 誠	66	1,072	7	3	2年連続14回目
	3941	池田 浩二	59	933	7	0	21年連続22回目
	4262	馬場 貴也	53	1,179	5	1	8年連続10回目
	4851	関 浩哉	47	777	7	1	3年連続3回目
	4444	桐生 順平	33	430	4	1	2年ぶり9回目
直前SGV	第35回グランドチャンピオン優勝者						
8	4686	丸野 一樹	52	773	5	3	2年連続5回目
9	4166	吉田 拓郎	51	850	5	2	2年連続8回目
10	4320	峰 竜太	45	953	6	0	2年連続12回目
11	4445	宮地 元輝	44	838	4	2	3年連続3回目
12	4024	井口 佳典	43	812	6	1	2年ぶり15回目
13	4030	森高 一真	43	692	4	1	4年連続14回目
14	4524	深谷 知博	42	1,021	3	1	4年連続7回目
15	3897	白井 英治	42	637	4	0	2年連続17回目
16	4586	磯部 誠	40	1,094	3	1	6年連続6回目
17	4573	佐藤 翼	40	983	4	1	4年連続4回目
18	4719	上條 暢嵩	39	797	5	1	2年連続3回目
19	3716	石渡 鉄兵	39	714	3	2	2年ぶり10回目
20	4537	渡邊 和将	39	627	4	1	初出場
21	4459	片岡 雅裕	38	979	4	0	4年連続5回目
22	4337	平本 真之	36	787	4	0	7年連続13回目
23	4362	土屋 智則	36	701	3	1	2年連続5回目
24	4503	上野真之介	34	753	3	0	3年ぶり3回目
25	4502	遠藤 エミ	33	733	2	2	2年連続8回目
26	4391	松田 祐季	33	695	3	0	2年ぶり3回目
27	3783	瓜生 正義	32	849	2	1	7年連続20回目
28	4682	大上 卓人	32	803	2	0	3年ぶり4回目
29	4504	前田 将太	32	664	4	0	2年ぶり8回目
30	4350	篠崎 元志	31	976	3	0	2年連続10回目
31	3942	寺田 祥	31	840	3	0	10年連続20回目
32	4831	羽野 直也	31	816	2	0	4年連続6回目
33	3415	松井 繁	30	952	2	1	3年連続26回目
34	4205	山口 剛	30	833	3	0	2年連続13回目
35	5121	定松 勇樹	29	897	4	0	初出場
36	4500	山田 康二	29	528	3	1	2年ぶり4回目
37	4013	中島 孝平	28	1018	3	0	5年連続16回目
38	4848	仲谷 颯仁	28	755	2	1	7年ぶり2回目
39	4685	島村 隆幸	27	721	2	1	3年連続3回目
40	5084	末永 和也	27	528	2	1	初出場
41	4450	平高 奈菜	27	378	3	1	3年ぶり4回目
42	3719	辻 栄蔵	26	733	2	0	2年ぶり18回目
43	4468	大池 佑来	26	682	2	0	初出場
44	4826	井上 一輝	26	364	3	0	初出場
45	4290	福田 浩二	25	736	2	1	2年ぶり5回目
46	4344	新田 雄史	25	592	2	1	4年ぶり10回目
47	4371	西山 貴浩	24	683	2	1	6年連続8回目
48	4528	黒井 達矢	24	580	2	0	3年ぶり3回目
49	4494	河合 佑樹	23	736	1	1	2年連続2回目
50	4886	入海 馨	23	554	2	1	初出場
51	4208	三浦 永理	23	357	2	1	初出場
52	4739	中村 晃朋	22	706	2	0	初出場
繰上	4932	新開 航	22	667	1	1	
予備2	4324	海野康志郎	22	480	3	0	



寺田祥



白井英治

も可能性は十分にある。
 峰竜太は今年序盤に右手中指の骨折をしてしまい賞金バトルでは出遅れる形となったが、傷が癒えてからは徐々に本来の姿を取り戻しつつある。5月のオールスターでは準優勝で年末も視界に入ってきた。大好きな夏を迎えて勢いを加速させる。
 マスターズ世代が今年も強い。4月に26代名人位を獲得した森高一真をはじめ石渡鉄兵や井口佳典らは侮れない。
 そして強い遠征組に待ったをかけたのが寺田祥と白井英治の地元山口支部2騎だ。この2人で思い出されるのが18年に徳山で行われたグラチャン。予選1位だった寺田は準優でまさかの2着とな

●表2 出場選手の徳山通算成績上位20人

順	登番	選手	勝率	2連率	3連率	優出	優勝
1	3897	白井 英治	8.05	66.51	81.60	53	27
2	3941	池田 浩二	7.63	55.19	71.43	10	2
3	4418	茅原 悠紀	7.60	57.36	71.07	13	5
4	3942	寺田 祥	7.52	60.15	75.17	61	22
5	4831	羽野 直也	7.51	57.14	80.00	8	3
6	3783	瓜生 正義	7.50	58.44	71.43	11	3
7	4686	丸野 一樹	7.40	55.21	69.79	5	2
8	4024	井口 佳典	7.32	49.65	65.73	10	3
9	4504	前田 将太	7.27	58.47	73.77	9	4
10	4337	平本 真之	7.13	44.95	66.06	5	0
11	4262	馬場 貴也	7.11	52.86	67.14	4	2
12	4502	遠藤 エミ	7.06	54.55	75.21	7	2
13	3719	辻 栄蔵	7.05	47.76	67.81	15	4
14	4320	峰 竜太	7.05	52.89	66.94	7	2
15	4450	平高 奈菜	7.02	56.89	72.46	7	1
16	4290	福田 浩二	7.02	53.90	68.79	7	1
17	4344	新田 雄史	7.00	46.85	63.96	3	2
18	4826	井上 一輝	6.98	51.11	74.44	3	0
19	4013	中島 孝平	6.94	44.44	63.11	5	1
20	4205	山口 剛	6.92	47.22	66.67	7	2

り、優勝戦1号艇が巡ってきた白井が王座に就いた。今大会も地元2人にかける期待と注目度は

とても高い。最終日の栄冠を目指し、全力で戦い抜く。

OCEAN CUP

in TOKUYAMA

SG初出場の井上一輝と中村晃朋 大池佑来は好調東京支部の勢いに続けるか

オーシャンカップ初出場は渡邊和将、定松勇樹、末永和也、大池佑来、井上一輝、入海馨、三浦永理、中村晃朋の8人。そのうち、井上と中村は今回がSG初出場となる。

井上は松尾拓や倉持莉々、羽野直也ら強豪集う114期生の一員。デビューから数年は3〜4点の勝率で実力派ぞろいの同期に

は遅れを取ったが、着実に力をつけて今年は1月の江戸川周年、2月の近畿地区選でGI優出。前期の勝率はキャリアハイの7・09をマークした。持ち味は何といってもスタート力だ。前期の平均STはコンマ14でまくりも得意だが、1Mは隊形を良くしてからのもうまい。一方の中村は12年11月にデビュー

1、13年目にして初のSG出場権を獲得した。高い旋回力を持ち、特にイン戦になると堅実さが増す。香川支部からは2月に平高奈葉がSQM、4月に森高一真がマスターズCを制覇。若手の突き上げもすごく、支部全体が盛り上がっている。中村もこの勢いに乗って水神祭、そして少しでも上のステージまで進みたい。

今年復調の兆しが出てきた渡邊和将も楽しみな存在だ。徳山では何と言っても2月の中国地区選で2走目から7連勝を飾り優勝した実績がある。ツボにハマった時の強さはSGの舞台でも通用するとは間違いなく、主役街道を突っ走る可能性は十分にある。



井上一輝



中村晃朋



大池佑来



渡邊和将

表3 第29回オーシャンカップ優勝戦
(2024/7/28・大村)

着	枠	選手名	ST	進入
1	④	茅原 悠紀	08	4
2	①	山口 剛	10	1
3	⑤	椎名 豊	07	5
4	⑥	磯部 誠	10	6
5	③	齊藤 仁	10	3
6	②	菊地 孝平	11	2

2連単④-①1230円 5番人気 抜き
3連単④-①-⑤4510円 18番人気

表4 オーシャンカップ過去10年の優勝者

回	年	場	選手名
20	2015	三国	石野 貴之
21	2016	鳴門	石野 貴之
22	2017	丸亀	峰 竜太
23	2018	若松	毒島 誠
24	2019	常滑	瓜生 正義
25	2020	鳴門	峰 竜太
26	2021	芦屋	濱野谷憲吾
27	2022	尼崎	椎名 豊
28	2023	児島	羽野 直也
29	2024	大村	茅原 悠紀

地元番記者が厳選 徳山の注目エンジンを丸裸に!!

2連対率は25年6月25日時点のもの

44 号機	評価 A	63 号機	評価 A	69 号機	評価 S	54 号機	評価 S	74 号機	評価 S
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
56.5%	➡	58.9%	↗	53.1%	↑	63.2%	↗	48.9%	↑
特別な雰囲気こそないがどの舟足も全体にまともって水準よりも上でバランスも取れている。		出足が特に好調だが、回り足や乗り味といったレース足系が目立ち接戦での強さが目立っている。		6月に入って急上昇。伸びを中心に行き足も好調でレースでは主導権を握るケースが多く自力勝負向き。		行き足、伸びを中心に総合的なバランスも良く常にトップ級の仕上がりを誇る安定感抜群機。		5月に佐藤大佑がパーフェクトな仕上がりでV。その後も全体に好調が続いてエース候補の最有力。	
66 号機	評価 B	15 号機	評価 B	29 号機	評価 A	73 号機	評価 A	28 号機	評価 A
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
43.7%	➡	53.3%	↘	40.4%	↗	46.6%	↗	50.0%	↗
基本的にはバランス型だが、伸び重視の調整で、極端に伸びることがあり一撃スタイルの調整が面白い。		調子はやや下降気味も伸びを中心にパワフルな動きでツボにはまったときの破壊力は満点。		回転の上がりがスムーズで湿度が高くなってから調子を上げた。出足を中心に実戦向きの傾向が強い。		出足を中心に力強い動きで行き足のスムーズさもある。直線の気配もまずまずで調整の幅も広め。		出足、回り足を中心に好ムードでどちらかといえばスロー向き。スムーズさもあり実戦で威力発揮。	

初使用は4月15日で、約2か月が経過。日替わり、節替わりで好調機が変わっていたが、少しずつ素性の良し悪しが出てきた。オーシャンカップまでの残り1か月で整備も本格的に解禁され、相場も変動する可能性はあるが、現時点での好調機はSGでも活躍が期待できる。

最も注目しているのが74号機。4月26日の初使用からずっと好調で、特に2節目の佐藤大佑は出足も伸びもすべての気配がトップ級に仕上がった。優勝戦は4カドからの一撃でV。抜群の伸びは強い印象を残した。

54号機は5月から6月にかけて3連続優出と安定感が魅力。行き足もスムーズで伸びにつながっており全体のバランスもいい。中嶋誠一郎、田頭実とベテラン勢の奮起に一役買った。もうひとつ69号機も調子を上げていて、特に直線系の気配は目立つ。ダッシュ戦でも威力を発揮しそう。

以上がS評価。A評価と大きな差があるわけではないが、ぜひ注目しておきたい3基だ。

**エース候補は74・54・69号機
破壊力ある66号機がダークホース**



りそう。使用するレーサーのスタイル次第では超抜機となり得る存在だ。

また66号機は安定性にこそ欠けるが、6月の杉村賢也が極端に伸びていたこともありダークホースとしての期待が膨らむ。

(日刊・洲上)